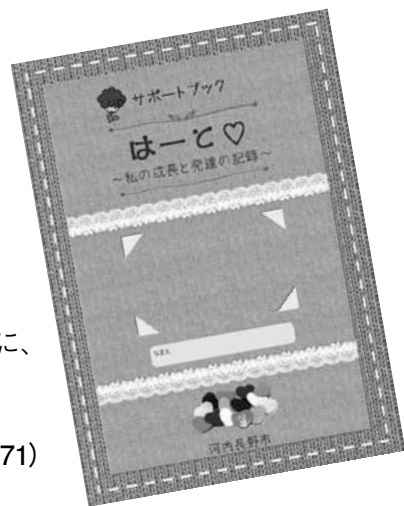


サポートブック「はーと」が完成



市ではこのほど、大阪大谷大学の協力を得て、サポートブック「はーと～私の成長と発達の記録～」を作成しました。これは、成長していくうえで細やかな配慮などを必要とする子どもたちが乳幼児期から成人期までのライフステージで一貫した支援を受けられることを目的に、保護者と支援機関が子どもの情報を共有するために記録するファイルのことです。ここでは、完成したサポートブックについて紹介します。問い合わせ 障がい福祉課または子ども・子育て総合センター「あいっく」(☎ 50-4671)

連続性のある適切な支援につなげるために

成長・発達に配慮や支援を必要とする乳幼児や児童の家族が、これまでの子どもの様子や支援を受けた内容などをサポートブックに記入し所持します。入園・入学時などにサポートブックを学校や関係機関に見せることで、子どもの情報を分かりやすく整理して伝えることができ、連続性のある適切な支援につなげることが期待できます。

■サポートブックの構成

本人の紹介、家族構成、生い立ち、年表、本人を中心とした生活マップ、生活の記録、相談・受診・検査の記録などで構成されます。

※子どもの状況に応じて、内容を変えたり、必要なシートを追加したりすることができます。自由に使うことができます。

■サポートブックの配布場所

障がい福祉課、子ども・子育て総合センター「あいっく」(すくすく相談ゾーン)、保健センター、市立保育所・幼稚園・小中学校、ピアセンターかわちながの、相談支援センターカーナ、こころッとなどで配布しています。

サポートブック講演会を開催しました

キックスで2月18日、今年度から活用が始まるサポートブックの意義や活用に関する講演会が大阪大谷大学との共催により行われ、保護者や支援機関関係者など約100人が参加しました。

講演会では、初めに和田栄教育長があいさつし、「サポートブックは、市で一貫した支援を行い、あるがままの姿を受け入れる支援ツールになるもので、今後、教育・福祉・保健・医療・労働の各分野が一つになり、子どもを中心に連携がより進んでいくよう取り組みたい」と述べました。

また、サポートブックの作成に尽力された同大学教授の小田浩伸さんが講演し(写真①)、「生涯にわたって一貫し



た支援を実現するためには、必要な情報の共有化が大切。サポートブックは子どもや保護者だけでなく、支援機関の関係者にとっても役立つツールになるもので、この取り組みが市全体に広がることを願っています」などと話しました。そして、保護者には、「子どもの良いところをたくさん記入し、元気の出るサポートブックを作ってほしい」と呼び掛けました。

4人の講師による講演に引き続き、保護者や支援機関、研究者らによるシンポジウムも行われ(写真②)、講演や意見交換を通じて、参加した人たちは、サポートブックについての理解を深めました。

